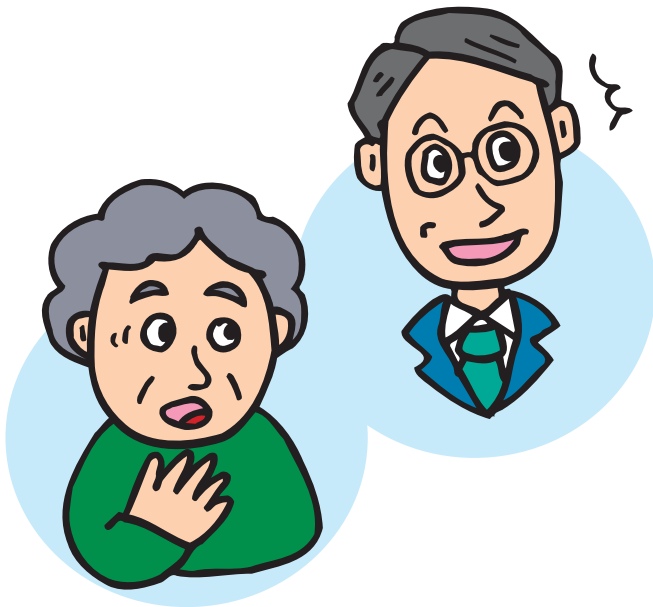


七尾市では、これから一年間に使わなければならぬお金（歳出）に対して、同じく一年間に入ってくるお金（歳入）が30億円少ない状況でした。

つまり、市民サービスのために使うお金が一年間に30億円も足りないということです。家計でいうと正に「火の車」です。これは、わたしたちのまちの将来にとって、とても大きな問題です。

この大きな問題をどうしたらよいか、みなさんにも考えていただき、ともに解決策を見出していくため、市の家計簿（財政）の実態をお知らせします。



どうして、そんなにお金が足りなくなるの？

市役所（町役場）がその時々々の市民のニーズに答えようとしてきた結果、長い年月をかけて、たくさんの方の行政サービスが増え、その費用も年々大きくなってきました。

ところが、近年になって景気は低迷し、少子高齢化が進んだことによって、入ってくるお金は減ってきました。それでも、医療や福祉、教育などで使わなければならないお金はますます増えてきています。いつかは景気が回復して税収が増えることを期待していましたが、実際には景気の停滞が続き、入ってくるお金は年々減る一方です。

使っお金がなかなか減らない、減らせない中で、わずかにある貯金を使ったり、借金をしたりして、なんとかやりくりしてきましたが、入ってくるお金が減りつづけ、とうとう貯金も使い果たしてしまっただこと、どうしてもお金が足りないということになってしまいました。